資料３　これからの中学校昼食のあり方について

【１】これからの中学校昼食のあり方について

区分	比較	
	メリット	デメリット
現行方式 （家庭からの弁当を基本） （選択式デリ弁当）	家庭弁当に対する子どもの満足度が高い	学校給食法による給食の基準を満たしていない
	家族に感謝の気持ちが芽生える	家庭弁当の栄養の偏り （子どもの好みに合わせることによる偏り、家庭ごとの栄養バランスの差）
	選択できる昼食に満足度が高い（家庭弁当、市販の昼食、デリ弁）	適温提供（保温・保冷）が難しい
	学校運営、学校環境への影響が少ない	デリ弁当の利用の不便さ、みんなが利用しない状況により利用しづらい
	アレルギー対応がし易い	教育扶助及び就学援助の対象とならない
	デリ弁当は緊急時に対応できる	夏場の食中毒の対策や、食中毒を防ぐための食材選びの制約
	家族とのつながりを深めることや、成長過程において個人差が最も大きい中学生に対し、量や内容にきめ細かく対応できる	小子化や核家族化などにより、家族や家庭を取り巻く環境が著しく変化し、中学生の食についても、多くの問題を抱える状況となっていることの対策がとりにくい
給食実施	学校給食法により給食実施に努めることが定められている	学校運営、学校環境への影響がある
	食習慣の形成と栄養バランスに配慮した食事を摂ることが可能	費用がかかる（初期投資費及び維持管理費）
	「生きた教材」として、食育が可能	食物アレルギー対応が必要
	適温提供（保温・保冷）が可能	
	教育扶助及び就学援助の対象となり、家庭の経済的困窮対策となる	

【２】中学校給食実施に向けた課題

（１）増加傾向にある生徒数
（２）中学校における給食関連施設の建築及び整備
（３）財源の確保
（４）老朽化している小学校給食室の大規模改修